

野良猫対策と新消防庁舎の 建設工事など



新消防庁舎について

森上 新消防庁舎の工事に関し一度は建築確認が下りた後に、防火区画の仕様変更がされたが、その理由と責任はどこにあるのか。

消防長 経過としては、施工前の協議の中で疑義が生じ、改めて確認したところ、防火区画の必要性が判明した。こうなつた原因は我々には分からない。

森上 責任は明確にすべきではないか。本来必要な仕様なので市に特別の損害はなく、市が本来負担すべきものことだが、それでは当初の落札価格も変わって、落札順位も変わるのではないか。

副市長 責任云々だが、設計も申請もプロなので、当然その段階で気づくべきが、結果として見過ごされたのか、不要の判断をしたか

森上 昌生 議員



は分からないが、法的に定めであれば、当然施工するものと考ええる。
森上 納得できる説明ではない。本来そういうことを含めて設計はなされるはずだ。



野良猫対策について

森上 支援策を考えているということだが具体的にどのような支援策を考えているか。

市民生活部長 総社市と同様の地域猫にすることができないか、市の環境政策に合致する活動に連携や支援を考えていきたい。

森上 猫飼養のモラル向上を図るために、猫の飼育に関する規制（ルール）を設けてはいかかがか。
市民生活部長 他市の状況を見ながら、今後の対応を考えたい。

子育て世代が憩える公園整備を



市街地の公園整備について

森 こどもまんなか宣言をしている高梁市には子育て世代が憩える公園がない。市の考えを問う。

土木部長 市街地への新たな公園整備は、認定こども園整備に伴う跡地利用なども1つの候補として考えていく。財源の確保も重要である。遊具を配した児童公園的なものが良いのか、ニーズを把握して検討していく。

森 新たな公園では、バスケットボールやスケートボードなどが楽しめるのか。

土木部長 議員から提案をいただいている公園機能の充実として、併せて検討していく。
森 新たな公園整備も必要だが、既存の公園も利用者の声に併せて整備するべきではないか。

森 和之 議員



土木部長 既存の公園の定期点検、維持管理修繕に併せて、日陰やベンチの増設、芝生を適地に植栽していくことで既存の公園の充実を図りたいと考えている。

森 子育て世代からは、市街地に公園を整備してほしいといった声を多くいただいている。子育て世代が憩え、高齢者は子どもが遊ぶ姿に元気をいただく、そのような公園整備を強く望んでいる。しっかりとした取り組みを願う。



市の広報について

森 エネルギー代高騰の昨今、身近な節電対策などを広報たかしに掲載するべきではないか。

市民生活部長 身近に取り組める節電対策など、お役立ち情報を広報紙に取り入れることにより、広報に親しんでもらえることになる。今後の広報を考えていきたい。

免許返納者への特典を



公共交通について

小林 外出困難者に対し、公共交通の果たす役割は重要である。現状と課題を整理し、今後どのように取り組んでいくのか。

市民生活部長 現在、新たな高梁市地域公共交通計画を策定するために、専門事業者も加えて協議検討を行っている。また市民の意見をアンケート調査する。

小林 周辺地域の交通体系と市街地の交通体系では違いがあると思う。それに対しての検討はしているのか。

市民生活部長 地域によつて交通体系の違いがあるのは認識している。料金の問題を含め、AIを活用した交通手段の導入やアプリの

小林 重樹 議員



活用によるオンデマンド運行、ライドシェアなどを検討して、周辺地域や市街地における買い物支援、通院などについても考えていきたい。

小林 運転免許証返納者への特典について、市の考えを問う。

市民生活部長 免許返納者への特典については特設持ち合わせていない。京丹後市などの先行事例を参考に、高梁市の場合、どのような制度が効果的であるかということも併せて考えていく。

<参考>
高梁市の
高齢者免許返納者数

令和3年	140人
令和4年	124人
令和5年	124人

(岡山県警察提供)

市への要望には真摯に向き合い 分かる形で回答することが大切



若者・子育て世代の声への対応について

伊藤 母体医療と小児医療の今後のあり方は。

健康福祉部長 分娩、産後のサポート事業や小児医療の相談体制について周知を図っていく。



上水道について

伊藤 4年間で、漏水量が1年間の総配水量に匹敵する現状をどうするのか。

市長 財源を確保しながら老朽管の更新を、1日も早く成し遂げていきたい。



地元商工業について

伊藤 吉備国際大学卒業生の市内就職を進める施策が必要では。
市長 商工団体の方と連携しながら、

伊藤 泰樹 議員



ら、学生への発信の仕方について工夫していく必要がある。



空き地荒廃対策について

伊藤 都市計画区域内だけでも管理不全土地の対策ができないか。
政策監 国の空き地対策の動向を注視しながら、空き地も含めた空き家の流動化対策に取り組む。



学力・学習状況調査について

伊藤 今後、高梁市の教育ではどんな取り組みをしていくのか。
教育長 Society5.0という超高度化した情報の中でも、たくましくしなやかに生きていける子どもを育てる。今はそれが一番大事だろうと考えている。